

箱庭療法における砂の性質が自己に与える影響 —異なる2種類の砂を用いた箱庭体験から—

本研究では、砂の性質が異なるもの(これまで販売され使用されてきた砂＝「白砂」とする。2017年に株式会社クリエイションアカデミーが、「押し固めると、自由な形が作れる砂」として販売している湿り気のある砂＝「潤砂」とする。)を2つ用意し、砂が制作者(自己)にどのような影響をもたらしているのかについて検討することを目的とした。大学生10名を対象に白砂と潤砂をそれぞれ異なる砂の性質を使用して箱庭制作を行った。本研究では、修正版グラウンデッドセオリーアプローチで分析を行った結果、9個のカテゴリーと14個の概念が生成された。

多くの制作者は、砂によって癒される体験をしていた。しかし白砂の性質のみに安心感が得られ、白砂には相互作用ができる感覚がある事が明らかになった。加えて、白砂には、自己生成がしやすい特徴が見られたことに対し、潤砂体験は、(自己)崩壊感を持ちやすい特徴があることが明らかになった。また、制作者は砂の性質や砂の動きに影響を受け、自己に変化が見られた。白砂には自己の受け皿として機能していたことに対し、潤砂には受け皿にはならず、制作者が砂を受け止める役割を持つことが明らかになった。つまり、白砂の性質には制作者の感情処理や満足感が得られることに対し、潤砂の性質には自己の崩壊感を体験したり、制作者の感情処理がしづらいことが推察され、2つの砂には表現の範囲を左右させるため、臨床場面への導入は慎重に行うことが望ましいと考えられる。